



最初にお読みください

CentreCOM® 9424T リリースノート

この度は、CentreCOM 9424T をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用の前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 2.11.1J

2 本バージョンで追加された機能

ファームウェアバージョン2.10.1Jから2.11.1Jへのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

2.1 SNMP

 参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

プライベート MIB のうち、ループガードに関する MIB オブジェクトとトラップをサポートしました。

ENABLE/DISABLE SNMP TRAP コマンドの STORMDETECT（受信レート検出）、LOOPDETECT（LDF 検出）パラメーターでトラップ生成の有無が設定できます。デフォルトは有効です。

2.2 エコ LED（ポート LED 消灯モード）

 参照 「コマンドリファレンス」 / 「省エネ機能」

ポート LED（L/A LED と D/C LED。SFP の L/A LED を含む）を点灯させないようにするエコ LED（ポート LED 消灯モード）に対応しました。ポート LED を消灯させておくことで、運用時の消費電力を抑えることができます。

ENABLE/DISABLE SWITCH PORT LED コマンドで、ポートごとに LED の点灯・消灯を設定できます。デフォルトは点灯です。

2.3 ループガード（LDF 検出）

 参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

一定時間ごとに特殊な試験フレーム（LDF）を送出し、接続機器を介して同じ LDF が同じ筐体に戻って来た場合に、LDF 送出ポートに対してリンクダウンやブロードキャストパケットの受信停止といったアクションをさせることで、ループの発生を防止する LDF 検出に対応しました。

ENABLE SWITCH PORT LOOPDETECTION コマンドで機能を有効にし、SET SWITCH PORT LOOPDETECTION コマンドでパラメーターの設定を行います。

2.4 ポート認証の機能拡張

 参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート認証」

ポート認証機能を以下のとおり拡張しました。

- IEEE 802.1X-2004 互換モードに対応し、802.1X 認証で使用する EAPOL のバージョンを選択できるようになりました。
SET PORTAUTH PORT コマンドの EAPOLVERSION パラメーターで 1 を指定すると 802.1X-2001 準拠モード、2 を指定すると 802.1X-2004 互換モードになります。デフォルトは 1 です。
- 802.1X 認証と MAC ベース認証において、未認証の Supplicant に対しても DHCP サーバー、DHCP/BOOTP リレー、DNS リレーが使用できるようになりました。
- ゲスト VLAN に指定する VLAN は、CREATE VLAN コマンドで L2ONLY パラメーターを指定して作成した VLAN（他の VLAN にルーティングを行わない VLAN）である必要がありましたが、L2ONLY パラメーターの指定がない通常の VLAN も指定できるようになり、未認証 Supplicant からのルーティングが可能になりました。
必要に応じてハードウェアパケットフィルターで他の VLAN へのルーティングを制御するようにしてください。
- 認証ログ機能において、Supplicant のログオフ時にログメッセージを記録できるようになりました。ENABLE PORTAUTH PORT LOGTYPE コマンドで LOGTYPE パラメーターに LOGOFF を指定します。
- Web 認証サーバーの設定情報をすべて削除し、機能を無効にする PURGE WEBAUTHSERVER コマンドが追加されました。

2.5 DHCP Snooping

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「DHCP Snooping」

DHCP サーバー・クライアント間でやりとりされる DHCP メッセージを監視して動的な IP ソースフィルタリングを行う DHCP Snooping をサポートしました。

本機能を利用すれば、DHCP サーバーを用いたネットワーク環境において、正当な DHCP クライアントにだけ IP 通信を許可することができます。

詳細はコマンドリファレンス「DHCP Snooping」を参照してください。

2.6 MLD Snooping : MLDv2 対応

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 マルチキャスト」 / 「MLD Snooping」

MLD バージョン 2 (MLDv2) の Snooping に対応しました。

詳細は、コマンドリファレンス「MLD Snooping」をご覧ください。

3 本バージョンで仕様変更された機能

ファームウェアバージョン 2.10.1J から 2.11.1J へのバージョンアップにおいて、以下の仕様変更が行われました。

3.1 ループガード（受信レート検出）

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

SET SWITCH PORT STORMDETECTION コマンドの BLOCKTIMEOUT パラメーターに指定できる最小値が、60 秒から 10 秒に変更されました。

4 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン2.10.1Jから2.11.1Jへのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 SHOW DEBUG コマンドまたは SHOW CONFIG コマンドを INFO オプション指定で実行すると、タイミングによっては本製品がリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 4.2 ADD RADIUSSERVER および SET AUTHENTICATION コマンドの SECRET パラメーターに半角空白、!、<、=、> のいずれかの記号を使用して設定を保存すると、起動時にエラーになっていましたが、これを修正しました。
- 4.3 IGMP Snooping または MLD Snooping が設定されている状態で、ファームウェアファイルの転送を行うと、転送失敗時にリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 4.4 トランクグループ作成時、各ポートの名称はグループ内で最も番号の小さいポートの名称に上書きされますが、設定を保存して再起動後にトランクグループを削除しても、最も番号の小さいポートの名称がそれ以外のポートにも残っていたため、削除後は本来のポート名称に戻るよう修正しました。
- 4.5 Rapid STP 有効時、エッジポートに設定されたポートでリンクアップ・ダウンが発生すると、トポロジーチェンジのログ、トラップが生成されていましたが、これを修正しました。
- 4.6 Multiple STP において、複数の MST リージョン接続時に MST インスタンスのマスターポート（CIST におけるルートポート）が存在する機器の、マスターポートではないポートから送出される BPDU に、Master フラグがセットされていませんでしたが、これを修正しました。
- 4.7 ハードウェアパケットフィルタにおいて、ポートが割り当てられていないエントリがある状態で、RESET ACL COUNTER コマンドを実行するとエラーが表示されていましたが、これを修正しました。
- 4.8 ポート認証において、ポートがゲスト VLAN に割り当てられているとき、ゲスト VLAN に所属する別の PC から未学習のユニキャストアドレスでは通信できませんでしたが、これを修正しました。
- 4.9 ポート認証のマルチプルダイナミック VLAN (VLANASSIGNMENTTYPE=USER 設定) において、大量の Supplicant が登録されている状態でポート認証の設定変更を行うとリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 4.10 ポート認証が無効の状態で、Web 認証による Supplicant からの認証要求を受けると、本製品のコンソール画面に不要なメッセージが表示されていましたが、表示されないように修正しました。

- 4.11 802.1X 認証でEAP-Requestの再送が発生した場合、最後の再送パケットに対して Supplicant から EAP-Response を受信しても、RADIUS サーバーに Access-Request が送信されず、認証に失敗していましたが、これを修正しました。
- 4.12 802.1X 認証でEAP-Requestの再送が発生した場合、最後の再送パケットに対して Supplicant から EAP-Start を受信しても、ただちに認証が開始されませんでした、これを修正しました。
- 4.13 サーバーとして使用されるUDPまたはTCPポート番号がヘッダーの終点ポートにセットされたTTL=1のパケットを受信すると、ICMP Time Exceeded メッセージが送信されませんでした、これを修正しました。
- 4.14 TTL=1のIPマルチキャストパケットを転送せずに破棄していましたが、これを修正しました。
- 4.15 IGMP Snooping とポートセキュリティー併用時、FDBに登録されていないMACアドレスを持つIGMPメッセージがフラッディングされ、マルチキャストグループの登録が行われていましたが、これを修正しました。
- 4.16 MLD Snooping 有効時、Hop Limit が「1」以外のMLDメッセージが破棄されずに、フラッディングされていましたが、これを修正しました。
- 4.17 DHCP サーバー機能において、IP アドレスの使用状況確認がARPに設定されているとき、IP アドレス使用状況確認用のARPと、同一IPアドレス宛てのルーティング用のARPが同時に送信されると、本製品宛ての通信ができなくなることがありましたが、これを修正しました。

5 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン 2.11.1J には、以下の制限事項があります。

5.1 SNMP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

- 複数のSNMPマネージャーから同時にプライベートMIBの取得を繰り返しているとき、本製品のSNMPエージェントが応答しなくなる場合があります。
- ipAdEntIfIndex および ifIndex には、物理ポート数 + (VLAN ID × 16) の値が付与されます。

5.2 複数ポートから1ポートへの通信

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

Jumbo フレームを複数ポートから1ポートに対して同時に送信すると、受信した1ポートからフレームが転送されません。

5.3 ポート認証

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート認証」

- SET PORTAUTH PORT コマンドのMODEパラメーターにMULTI、CONTROLパラメーターにAUTHORISEDを指定しているとき、SHOW PORTAUTH (PORT) コマンドでサブリカント数が正しく表示されない場合があります。

- Authenticator ポートに、ADD SWITCH FILTER コマンドによるスタティック MAC アドレスの登録が可能です。登録されたスタティック MAC アドレスで通信をすることはできません。
- ダイナミック VLAN で、認証されたポートを別の MST インスタンスに所属する VLAN に指定した場合、同一 VLAN 内でも通信ができなくなります。

5.4 DHCP Snooping

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「DHCP Snooping」

DHCP Snooping の ARP セキュリティー (ENABLE DHCPSPNOOPING ARPSECURITY コマンド) と Web 認証の ARP/TCP/UDP パケット透過 (SET PORTAUTH PORT コマンドの ARPFORWARDING/TCPPORTFORWARDING/UDPPORTFORWARDING パラメーター) は併用できません。

5.5 バーチャル LAN

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「バーチャル LAN」

イングレスフィルタリング無効の状態では 2 つの VLAN を作成した場合に、双方のタグなしポート間で、VLAN を超えてフレームを転送してしまうことがあります。

5.6 IP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

IP ヘッダー長が 24Byte 以上あるルーティングパケットがルーティングされずに破棄されます。

6 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

取扱説明書、および「CentreCOM 9424T コマンドリファレンス 2.11 (613-001210 Rev. C)」の補足事項と誤記訂正です。

6.1 本製品起動時のご注意

本製品の電源をオンにしてから起動が完了するまでの間は、電源ケーブルを抜いたり、リセットボタンを押したりしないでください。

6.2 CD-ROM (英文マニュアル) について

 **参照** 「取扱説明書」 14 ページ

取扱説明書 14 ページの「梱包内容」に「CD-ROM (英文マニュアル)」の記載がありますが、CD-ROM の同梱は廃止されましたので、訂正してお詫びいたします。

なお、初期生産時に同梱されていた英文マニュアルの記載内容は、サポート対象外です。日本語版マニュアルのみにしたがって、正しくご使用ください。

6.3 壁設置ブラケット「AT-BRKT-J22」

 **参照** 「取扱説明書」 15 ページ

取扱説明書に記載がありませんが、本製品は壁設置ブラケット「AT-BRKT-J22」に対応しています。設置方法および取り付け可能な方向は弊社ホームページに公開していますので、付属のマニュアルとあわせてご確認のうえ、適切に設置を行ってください。

7 未サポートコマンド（機能）

以下のコマンド（機能）はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

SET PORTAUTH PORT {FORCERENEWING={ENABLED|DISABLED}}

PURGE/SHOW PKI

SET PKI CERTSTORELIMIT

SHOW IP ROUTE FDB

SET BOOTP RELAY MAXHOPS

8 コマンドリファレンスについて

最新のコマンドリファレンス「CentreCOM 9424T コマンドリファレンス2.11 (613-001210 Rev.C)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、あわせてご覧ください。

コマンドリファレンスのパーツナンバー「613-001210 Rev.C」はコマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>